



プラハの旧市街市庁舎



運営と連絡先情報

歴史ある内装の一日の開館時間:
 月 11.00-19.00
 火-日 9.00-19.00

市庁舎塔の一日の開館時間:
 月 11.00-22.00
 火-日 9.00-22.00

一般入場券 250 CZK
 割引入場券 150 CZK
 モバイル入場券 210 CZK

プラハ天文時計台の使徒たちのショー:
 毎日一時間ごとに 9.00-23.00

☎ +420 775 400 052
 ✉ oldtownhall@prague.eu
 📍 prague.eu/oldtownhall

📍 1階には観光案内所とプラハ市観光ガイド受付窓口があります。

皆様のお越しをお待ちしております！



テキスト© プラハ市観光事業産業、2018
 写真© プラハ市観光事業産業、首都プラハのアーカイブ、



Prague:emotion

データで見る市庁舎

1338 - 旧市街市庁舎設立
 旧市街市庁舎は世界で最古の市庁舎の一つ。

14世紀 - 市庁舎塔の建設
 旧市街市庁舎の塔の高さは69.5m。

1381 - 市庁舎礼拝堂の最初の献堂
 礼拝堂は歴史の中で合計6回捧献された。

1410 - プラハ天文時計登場
 旧市街の天文時計は今日でも機能する世界で最古のもの。

1458 - チェコ王イジー・ス・ボジェブラドが選出される
 この出来事は、会議ホールの絵画の一つにも取り上げられていて、一5×7,3 mのサイズにもなる巨大なキャンバス。

1621 - 市庁舎の前で「貴族の反乱」の関係者らが死刑にされる
 今日、追悼記念として広場の舗装に27の白い十字のはめ込みが見られる。

1838-1848 - 旧市街市庁舎の新ゴシック建築の改築
 市庁舎に建築家のノビリーとスプレングルの業績で新しい北東の別館ができる。

1939 - メイン玄関ホール装飾
 市庁舎の玄関ホールに壮大なモザイクの装飾が施される。第2次世界大戦中、占領軍の命令で隠すことを余儀なくされる。

1945 - 市庁舎への爆撃
 「プラハの反乱」の戦いで、市庁舎の大部分がナチスの攻撃により破壊される。

2018 - 天文時計の全体的修復
 天文時計が戦前の様子に極めて近い姿に修復された。



旧市街市庁舎 1945年5月

待たずに塔へ

市庁舎を訪れる人は一般のチケットのほか、携帯電話でチケットも購入できます。これは列で待たずに塔に入ることができる唯一の優遇チケットです。安い料金が魅力で、**mチケット**の特典としてボーナスもついていて、これらをお客様はその媒介を通じてご自身の電話にインストールできます。13か国の言語で使用できます。

携帯電話のチケットはQRコードを読み込み後取得できますし、またアドレス prague.mobiletickets.czでも直接お買い求めいただけます。

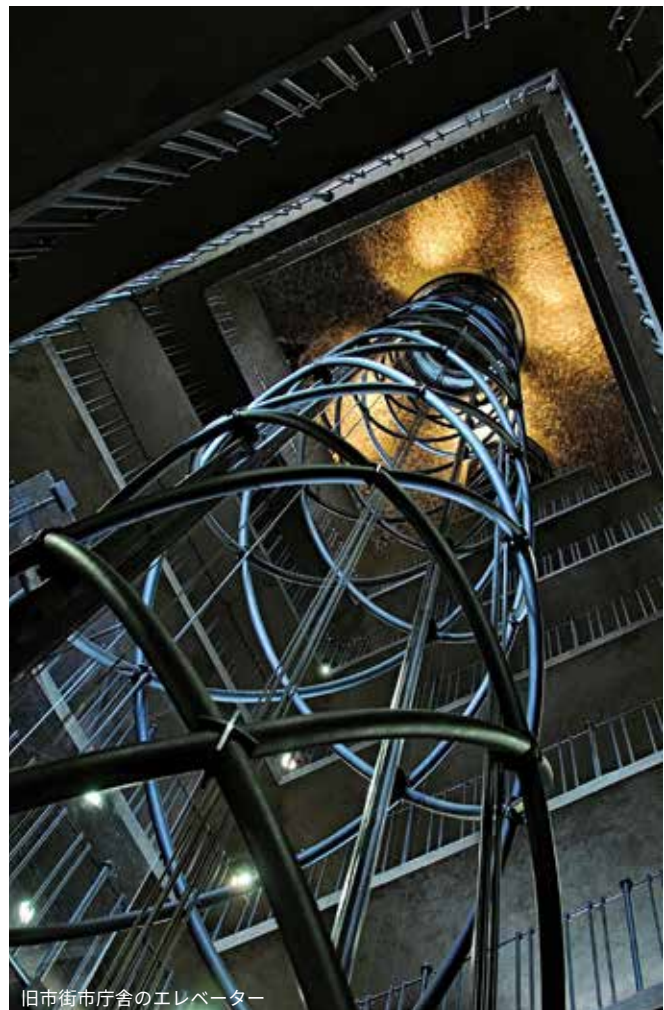


プラハ市街鳥瞰

旧市街市庁舎と全広場で最も目を引くのは、14世紀の巨大なゴシック様式の塔です。設立当時、全プラハ市内で最も高い建築物でした。その最上部には見張り番人の家が建てられ、ここから周囲を監視したり、危険の際には市に警報が出されました。

その監視の回廊からは町の全景が最高によく見えます—鳥瞰からの眺めで、ここからティーン教会や聖ミクラーシュ教会を見渡せ、遠くにはプラハ城を称賛したり、多様なプラハ建築の何十もの塔、小塔やドームまで見ることができます。

旧市庁舎塔はプラハの中世の塔の中で唯一完全にバリアフリーとなっている。回廊を地面とつなぐモダンなガラスエレベーターがいくつかのデザイン賞を受賞している。



旧市街市庁舎のエレベーター

プラハの旧市街市庁舎

旧市街市庁舎は、プラハの歴史の中核で最も素晴らしい名所です。14世紀から徐々に市民の家屋を買い取り、統合して形成されたものです。今日では、歴史ある五つの建物の集合体で、ほぼすべての時期の建築様式をみることができます。

市庁舎は何度もプラハやチェコの国の歴史に登場してきたことで顕著です。市庁舎内でチェコ王イジー・ス・ポジェブラドが選出され、この広場でフス派の過激派のリーダーであるヤン・ジェリフスキーが処刑されました。後にチェコの「貴族の反乱」の関係者がこの場で集団処刑されました。第2次世界大戦末に占領軍の攻撃の標的になり、その大部分が壊滅しました。



19世紀末の旧市街市庁舎

12使徒を間近で

何世紀にも渡り、プラハ市民や観光客などの通行人の注目になっているのが、有名なプラハの天文時計です。1410年以来プラハ市庁舎の顔となっています。市庁舎の塔の南側に特別の石造りの別館が建てられ、そこにすべての機械仕掛けの備品が置かれました。すでに当時、もっと古い天文時計が外国にありましたが、そのどれもこのような完璧性には程遠く、プラハの旧市街の天文時計がもっと素晴らしいと感じられません。

天文時計はいくつかの部分で構成されています—天文また暦のパネル以外に、毎時間小さい2つの扉から登場する機械仕掛けで動く12人使徒が備わっています。**市庁舎の一階の礼拝堂では、使徒たちのショーを内側からも見るすることができます。**



旧市街市庁舎の天文時計の使徒たち—内装からの眺め

定刻になると始まる使徒の行進と同時に時計の横側に配置された彫像も動き出す。その中で一番印象深いのは死神である。砂時計を回転させることで時間の動きを止め、また人が死んだ時に使われる鐘を鳴らすことによって、それぞれの人生の時間が限られていることを表している。

歴史ある表象的ホール

プラハを訪れる人は是非、市庁舎の内装をご覧ください。各階の空間は、多様な歴史的装飾が施され、これは市庁舎の総合建築の珍しい変遷の記録ともいえます。今日では主に首都プラハ市を表象する場として使用されています。

旧市街市庁舎の核になるのは**聖母マリア礼拝堂**です。市庁舎塔建築後すぐに設立され、1381年に献堂されました。この場で礼拝は毎都市議員会議の開始前、市の囚人やここから死刑場に向かう死刑宣告者にも行われました。ここで統治者の神聖化のミサが行われ、またよく葬式の場にもなりました。

市庁舎の礼拝堂は、チェコで最も希少な建築史跡の一つです。五角形の出窓で完成され、外層はチェコのパトロンの像や石造の文字で装飾されています。礼拝堂の建築者はペトル・パルレーシュで、プラハ城の聖ヴィート、ヴァーツラフやヴォイケフ大聖堂の建築家です。

旧市庁舎のホールもゴシック時代の有名な作品です。全市庁舎でもっとも希少な場所は15世紀初頭当時の様相が残っています。贅沢に形作られた梁の天井、貴重な彫刻の装飾や美しく彫刻された歴史ある家具は格別です。過去にはここで町会議員の会議や裁判が行われました。



旧市街市庁舎のホールにある市長の椅子



旧市街市庁舎一階のゴシックのチャペル

プロジークの会議ホールは旧市街市庁舎で最も大きいものです。1軒の建物の全平面図に匹敵し、その高さは2階（3階）建てです。著名な画家ヴァーツラフ・プロジークの2つの巨大な絵画が、ホールの主要な装飾になっています。チェコの歴史の重要な節目がその主題です—1415年の評議員会の指導者ヤン・フスと1458年の旧市街の市庁舎におけるチェコ王イジー・ス・ポジェブラドの選出の様子を描写しています。



プロジークの議会ホール

中世の地下道

市庁舎内の地下に隠れられた場所も旧市街市庁舎見学コースの一部になっています。**ロマン—ゴシック様式の地下**の複雑な構造は、市庁舎そのものより古いものです。中世のホール、階段やトンネルの複合建築は同時にプラハで見られる最大のものです。



市庁舎の下のロマン—ゴシック様式の地下